

2022年3月期 決算説明会資料

2022年5月11日

自然と、あなたと、ともに未来へ。



クアンチ風力(144.0MW、ベトナムクアンチ省内)

注意事項

本資料は、株式会社レノバ(以下「弊社」といいます。)及び弊社グループの企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、弊社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、弊社はその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではなく、また、弊社はその内容を更新する義務を負うものでもありません。

また、本資料に記載される弊社グループの計画、見通し、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における弊社の判断又は考えにすぎず、実際の弊社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外のエネルギー政策、法令、制度、市場等の動向、弊社グループの事業に必要な許認可の状況、土地や発電設備等の取得・開発の成否、天候、気候、自然環境等の変動等により、本資料記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

本資料の記載金額は、原則、連結数値を使用、百万円未満は四捨五入(日本基準は切り捨て)としているため、各欄の合計値と合致しない場合があります。

本資料における当期(四半期)純利益は、親会社の所有者に帰属する当期(四半期)純利益を記載しています。

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社レノバ IR室

電話 : 03-3516-6263

メール: ir@renovainc.com

IRサイト: <https://www.renovainc.com/ir>



1. 2022年3月期決算の概要

2022年3月期連結決算(IFRS)及び直近のハイライト

1

苅田バイオマス(75.0MW)が運転開始し連結業績に寄与
売上収益及びEBITDAが過去最高を更新

2

苓北風力(54.6MW)の開発は順調に進捗
今期中の着工を予定

3

海外及び国内における
Non-FITも含む新規事業の推進

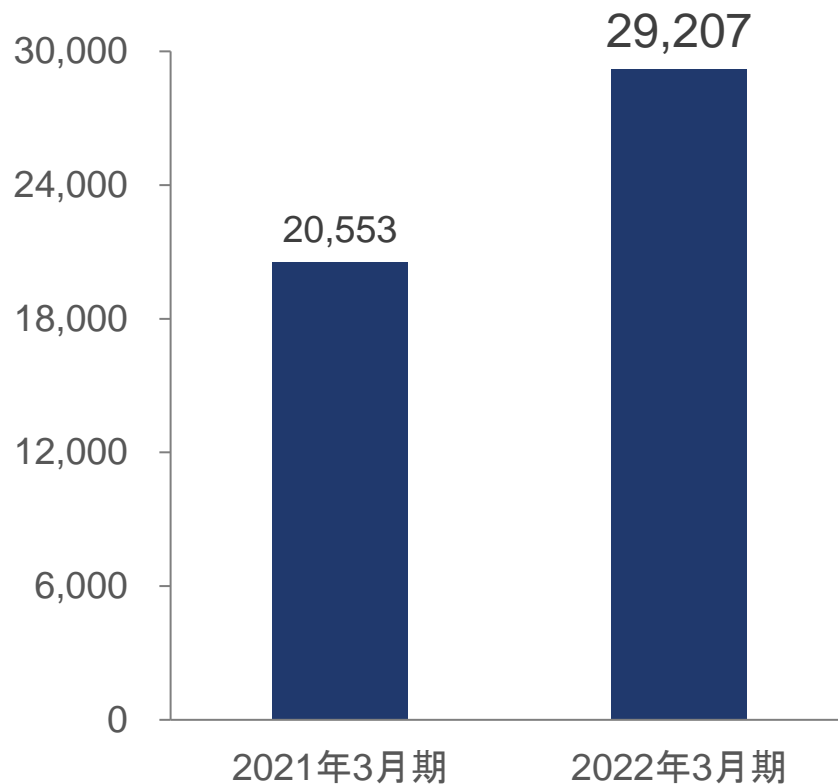
I. 2022年3月期決算(IFRS基準)

連結売上収益及び連結EBITDA^{*1}の推移(IFRS)

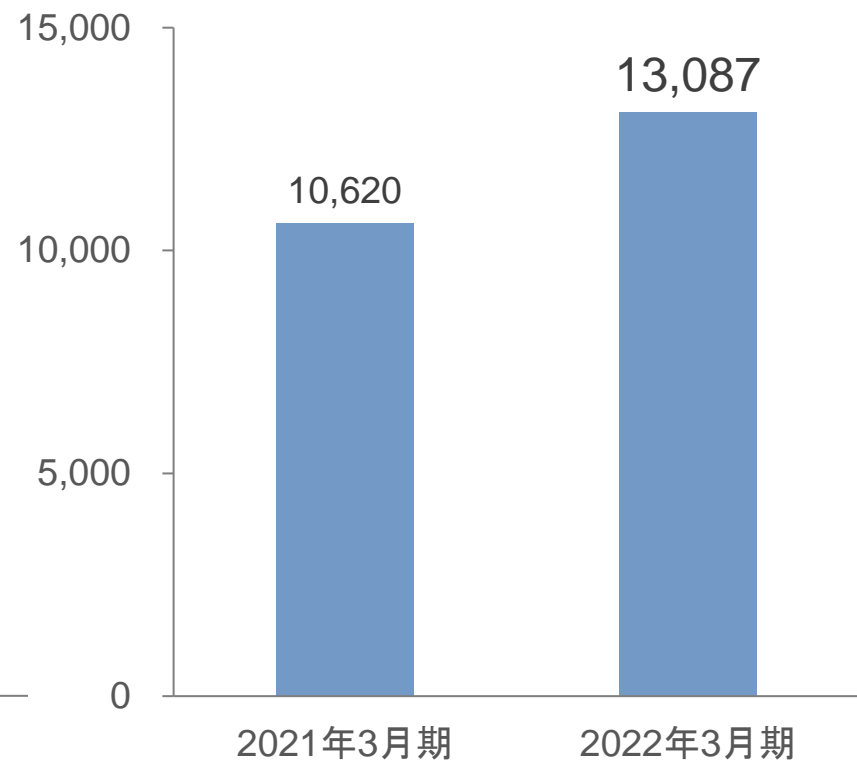
(単位: 百万円)

- 売上収益及びEBITDAは、苅田バイオマス及び軽米尊坊ソーラーの運転開始に伴い前年対比で増収増益

連結売上収益(実績)



連結EBITDA^{*1}(実績)



^{*1} EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益(由利本荘洋上風力除く)+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

2022年3月期 連結決算ハイライト (IFRS)

(単位: 百万円)

■ 売上収益及びEBITDAは、過去最高を更新

	2021年3月期	2022年3月期	前期比増減
売上収益	20,553	29,207 過去最高	42.1%
EBITDA*1	10,620	13,087 過去最高	23.2%
EBITDA マージン	51.7%	44.8%	-
営業利益	4,605	874	▲81.0%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	11,507	1,581	▲86.3%

*1 EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益(由利本荘洋上風力除く)+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

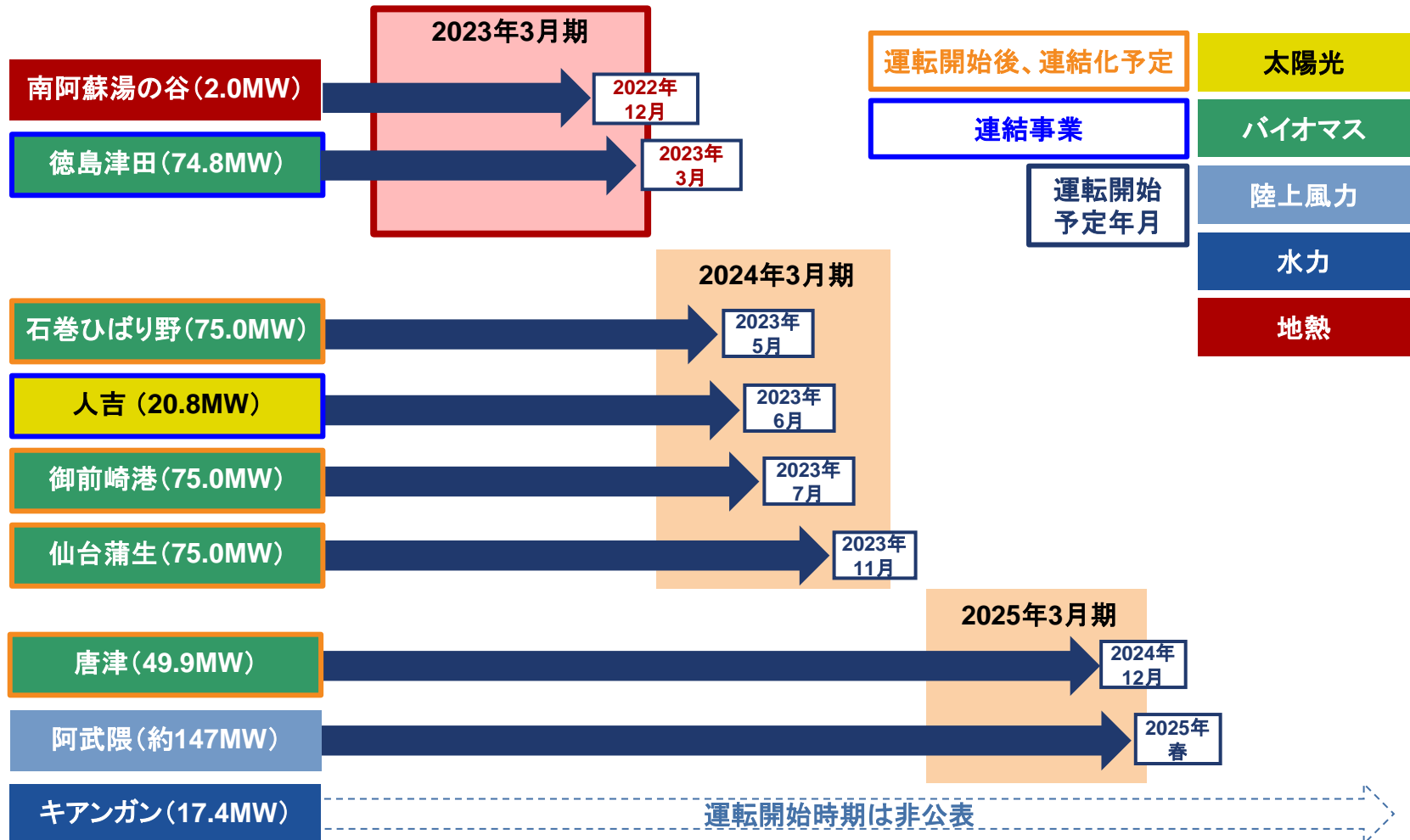
2. 事業の進捗



建設中事業の運転開始スケジュール^{*1*2}

2022年5月現在

■ 今期以降に運転開始予定の全9事業^{*2}の建設は予定通りに進捗



*1 建設中の事業の運転開始の年月は、現状における予定であり、変更、遅延となる可能性がある。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

*2 2021年8月に着工したキアンガン水力(17.4MW)の運転開始は非公表

建設中事業の進捗(1/4)*1

徳島津田バイオマス(74.8MW、徳島県徳島市)(2022年5月時点)

- 2023年3月の運転開始に向け、順調に進捗
- 2022年10月に試運転開始する予定

事業概要



全景
(2022年4月)

設備容量*2	74.8MW
主燃料	輸入木質ペレット (未利用材及びPKS併用)
FIT単価	24円/kWh (未利用材は32円/kWh)
想定売上収益*3	約130億円/年
総事業費*4	約500億円
LTC	90%
運転開始後の 出資比率*5	レノバ: 60.8%*5 大阪ガス: 33.5% 他

2023年3月運転開始(予定)*3

*1 EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記 *2 バイオマス発電は発電端出力ベースの設備容量表記
 *3 現状の計画であり、変動する可能性がある *4 発電関連設備、建屋、土地、土木造成、ファイナンス関連費用(リザーブ等含む)、開業関連費用など、運転開始までにかかる全ての支出を含んだ金額 *5 弊社が筆頭株主として、現在SPCの株式60.8%を保有。

建設中事業の進捗(2/4)*1

2022年5月現在

- 石巻ひばり野バイオマス(75.0MW)は主要設備の据付等が進捗
- 御前崎港バイオマス(75.0MW)は、ボイラ機器の据付等が順調に進捗

石巻ひばり野バイオマス (75.0MW、宮城県石巻市)

主要設備の据付
(2022年4月)

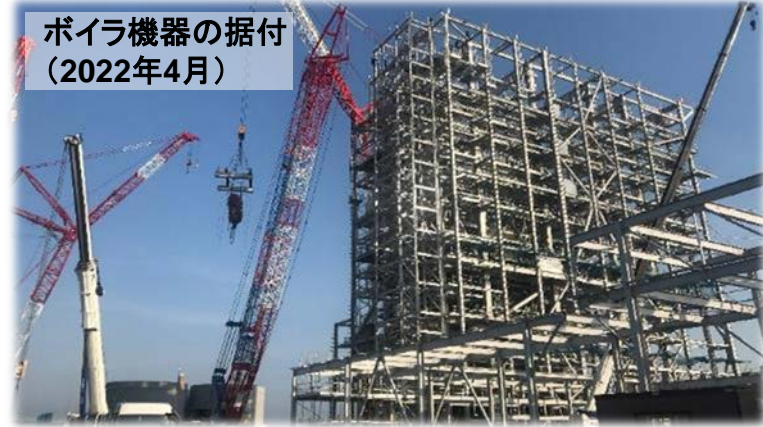


設備容量*1	75.0MW
主燃料	輸入木質ペレット (未利用材及びPKS併用)
FIT単価	24円/kWh (未利用材は32円/kWh)

2023年5月運転開始(予定)*2

御前崎港バイオマス (75.0MW、静岡県御前崎市他)

ボイラ機器の据付
(2022年4月)



設備容量*1	75.0MW
主燃料	輸入木質ペレット (未利用材及びPKS併用)
FIT単価	24円/kWh (未利用材は32円/kWh)

2023年7月運転開始(予定)*2

*1 バイオマス発電は発電端出力ベースの設備容量表記

*2 現状の計画値であり、変動する可能性がある

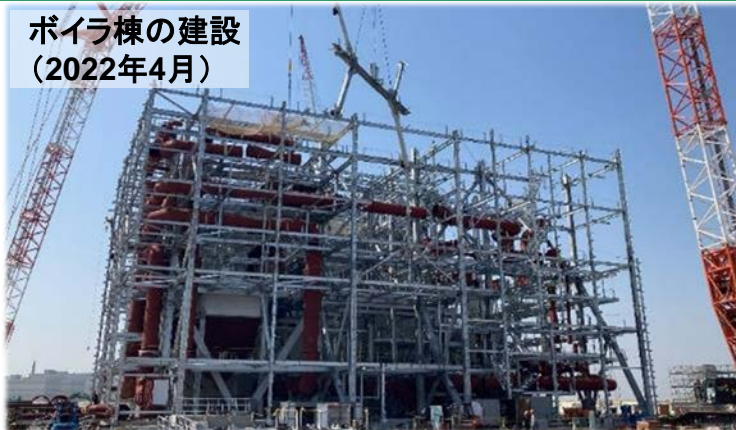
建設中事業の進捗(3/4)*1

2022年5月現在

- 仙台蒲生バイオマス(75.0MW)は、ボイラ棟の建設等が順調に進捗
- 唐津バイオマス(49.9MW)は造成工事等が順調に進捗

仙台蒲生バイオマス (75.0MW、宮城県仙台市)

ボイラ棟の建設
(2022年4月)



設備容量*1	75.0MW
主燃料	輸入木質ペレット (未利用材及びPKS併用)
FIT単価	24円/kWh (未利用材は32円/kWh)

2023年11月運転開始(予定)*2

唐津バイオマス (49.9MW、佐賀県唐津市)

造成工事
(2022年4月)



設備容量*1	49.9MW
主燃料	輸入木質ペレット (PKS併用)
FIT単価	24円/kWh

2024年12月運転開始(予定)*2

*1 バイオマス発電は発電端出力ベースの設備容量表記

*2 現状の計画値であり、変動する可能性がある

建設中事業の進捗(4/4)^{*1}

2022年5月現在

■ 南阿蘇湯の谷地熱、人吉ソーラーやキアンガン水力は、土木工事が順調に進捗

南阿蘇湯の谷地熱 (2.0MW、熊本県南阿蘇郡南阿蘇村)		人吉ソーラー (20.8MW、熊本県人吉市)		キアンガン水力 (17.4MW、フィリピンイフガオ州)	
冷却塔等工事 (2022年4月) 		調整池の整備 (2022年4月) 		躯体工事 (2022年4月) 	
設備容量 ^{*1}	2.0MW	設備容量 ^{*1}	20.8MW	設備容量 ^{*1}	17.4MW
FIT単価	40円/kWh	FIT単価	36円/kWh	FIT単価	5.87フィリピン・ペソ/kWh ^{*3} (約11.7円 ^{*4})
2022年12月 運転開始(予定) ^{*2}		2023年6月 運転開始(予定) ^{*2}		運転開始 に向け建設中 ^{*2*5}	

^{*1} EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記、^{*2} 現状の計画値であり、変動する可能性がある

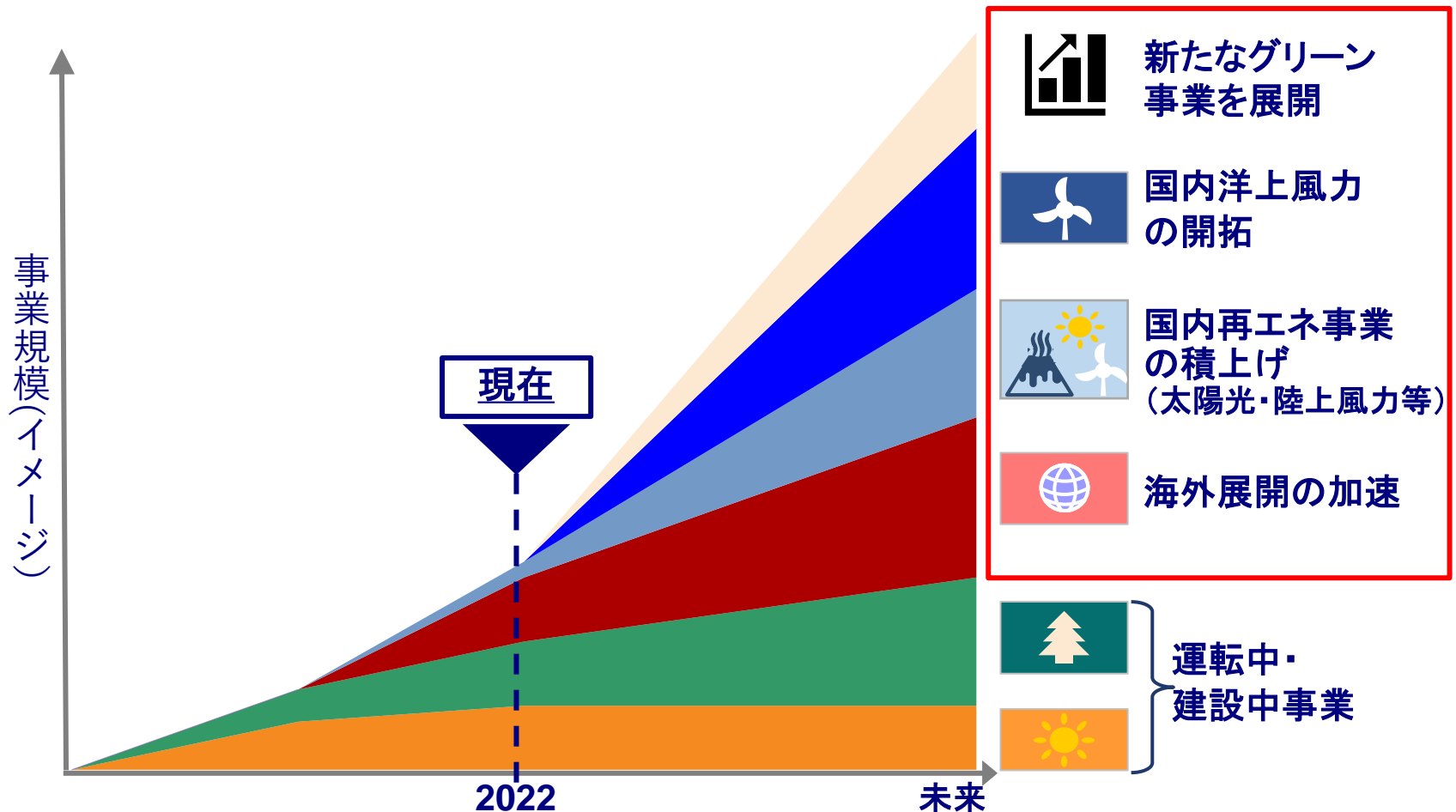
^{*3} 小水力発電に関するFIT対象枠の残存期間中に運転開始した場合の想定FIT単価、^{*4} フィリピン・ペソ=2円で換算した参考値、^{*5} 運転開始時期は非公表

3. 重点領域の進捗



レノバの成長イメージ

- 再生可能エネルギー需要の拡大を背景に、「マルチ電源」の開発を加速
- 脱炭素化に資する新たなグリーン事業の開発も推進中

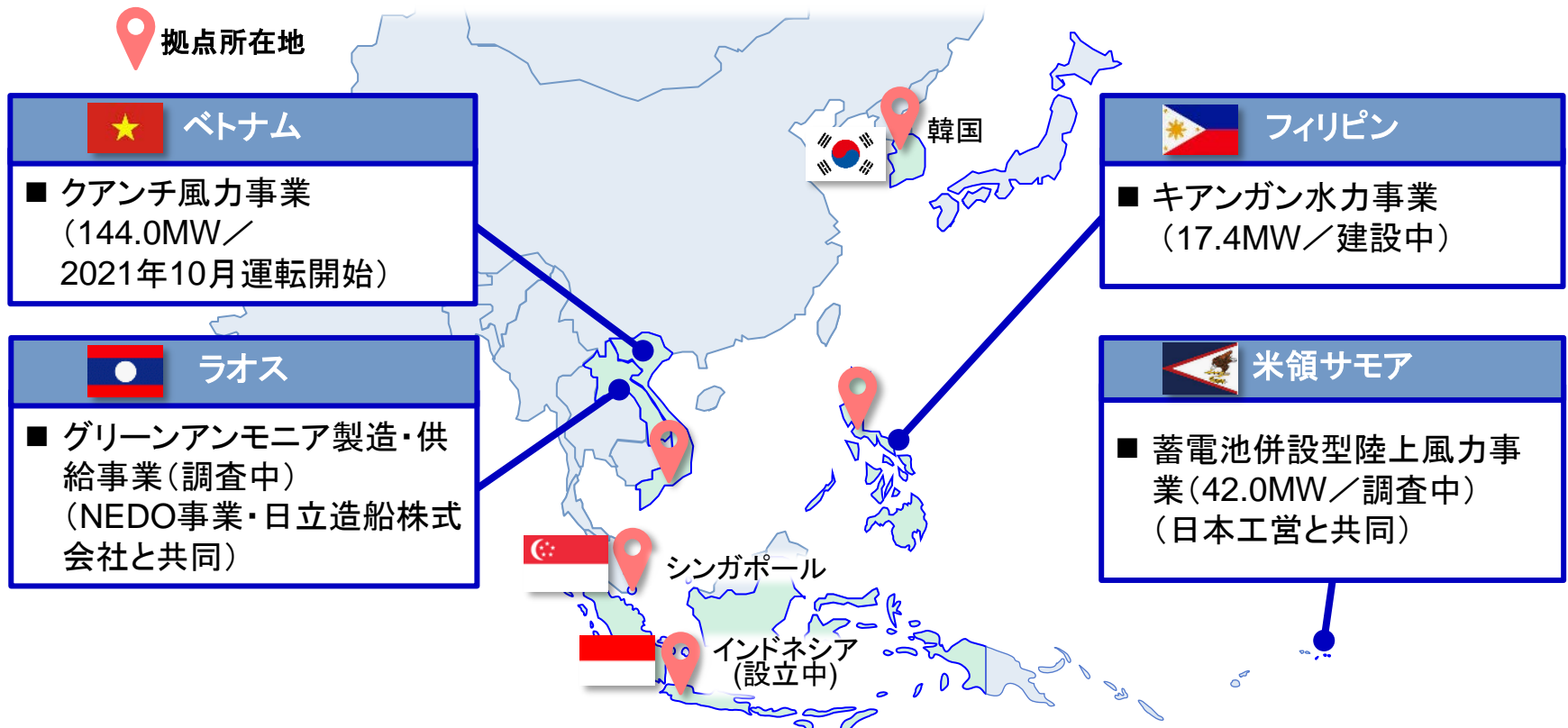


海外事業の取り組み

2022年5月現在

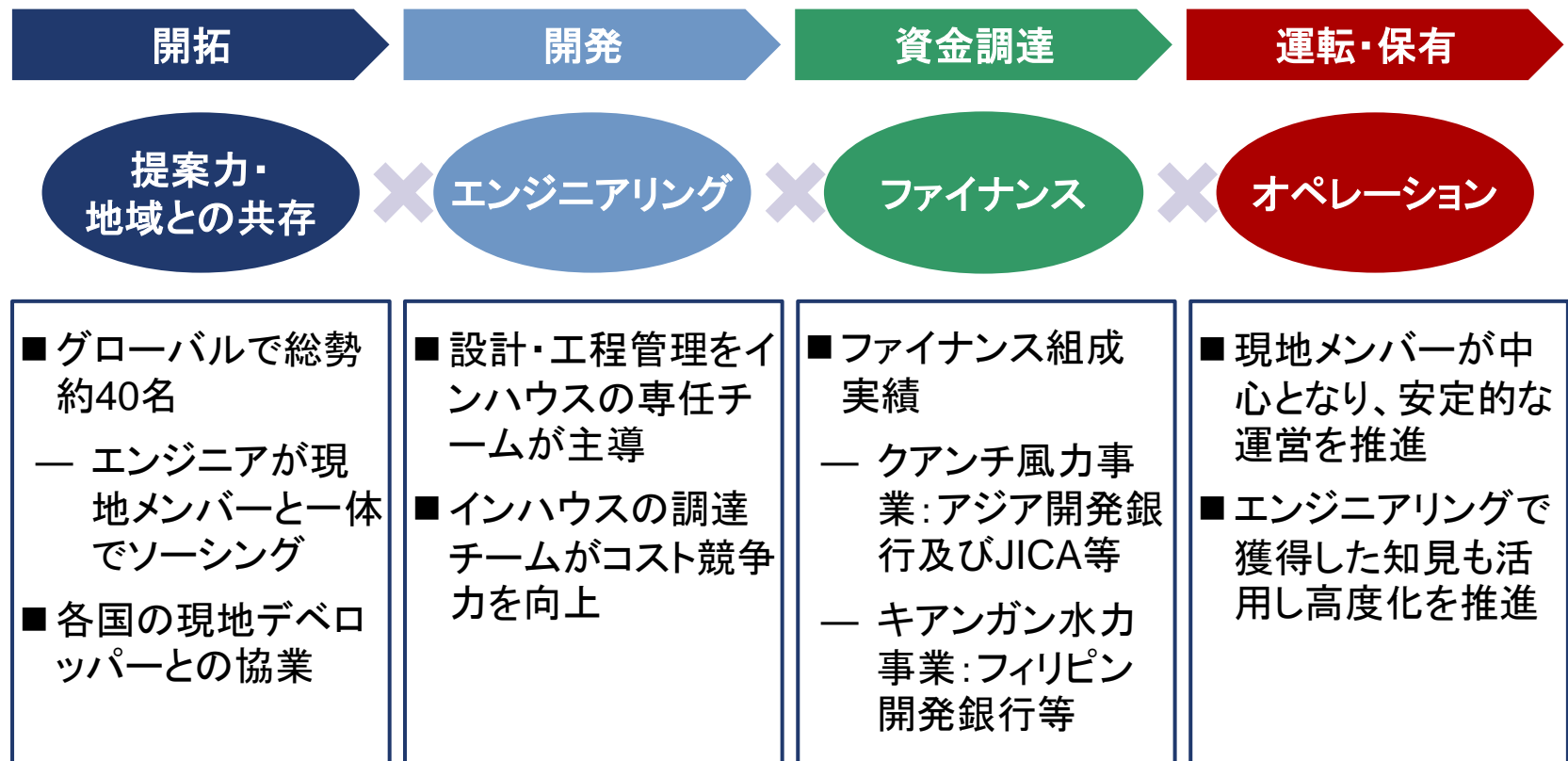
- 2017年からアジアでの事業開発に着手し、現在は5拠点をベースに展開
- エンジニアリングチームも含め、現在ではグローバルに約40名の体制で推進中

海外拠点所在地及び公表済み事業



海外事業におけるレノバの特徴・強み

- 日本において培った再エネ電源の開拓から運転に至る一気通貫のノウハウを横展開し、開発を加速



海外事業の実績

クアンチ風力事業(ベトナム、144.0MW)

- 着工から約1年5か月で商業運転を開始
- レノバはファイナンス、エンジニアリング分野を主導、運転開始後もO&M業務を通して稼働率約97%^{*1}を実現

開拓から運開までの様子



事業概要

設備容量	144.0MW
FIT単価 ^{*2*3}	約11.1 円 / kWh
着工年	2020年 5月
竣工年月	2021年10月
想定売上 ^{*3*4}	約64億円 / 年
年間想定EBITDA ^{*3*4}	約57億円 / 年
出資比率	PC1 Group他: 60.0%、レノバ: 40.0%

^{*1} O&M契約を開始した12月から3月までの累計平均

^{*2} ベトナムのFITスキームに則り売電

^{*3} \$1=130円で換算した参考値 ^{*4} 現状の計画であり、変動する可能性がある

調査中事業：蓄電池併設型陸上風力（米領サモア）

2022年5月現在

- 本事業により、Tutuila島の発電量に占める再エネ比率を50%以上に高め、脱炭素化及び電力価格の低減に大きく寄与する見通し*1
- 小規模な系統への再エネ導入による出力変動の課題を蓄電池併設等で解決



事業概要

事業主体	Tutuila Wind Energy LLC(*2)
建設地	米領サモアTutuila島
設備容量 (計画値)	陸上風力： 42.0MW 蓄電池： 40MWh
事業期間	商業運転開始後25年間
出資比率	レノバ： 50% 日本工営： 50%

当社初の蓄電池併設型 且つ
小規模系統の環境での再エネ事業。
各種調査や住民説明会等を準備中

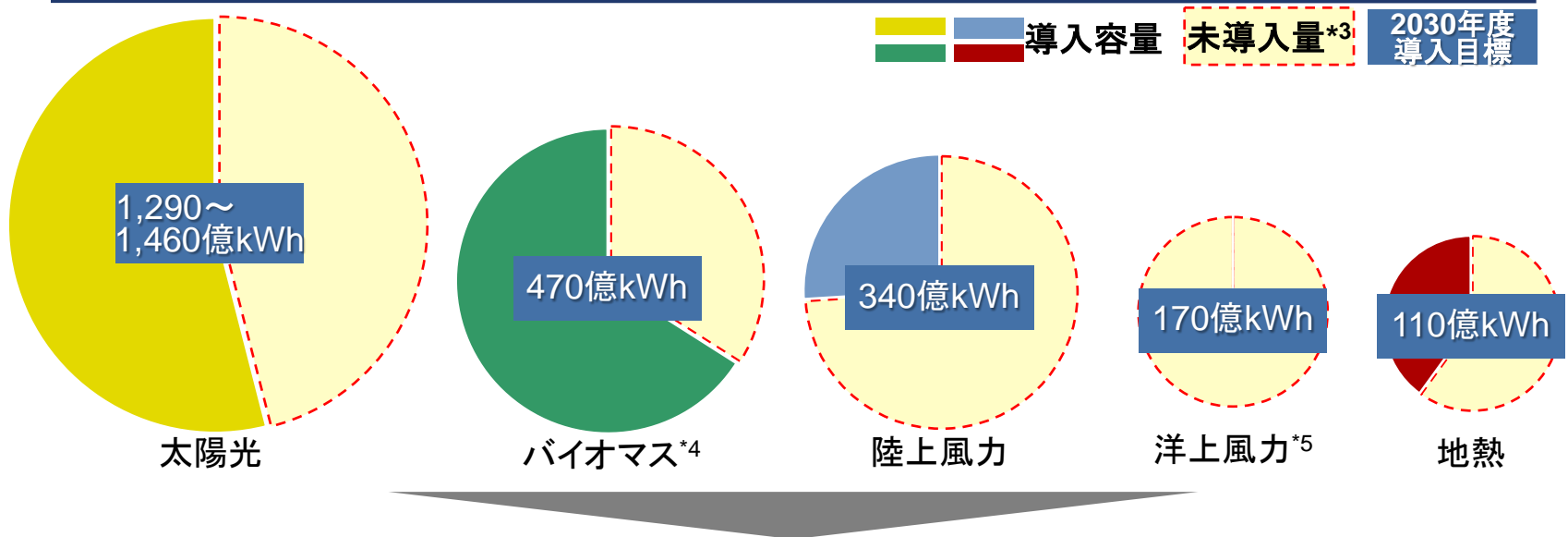
*1 エネルギーアクションプランで2025年までに米領サモア全体の発電量に占める再生可能エネルギー比率を50%、2040年までに100%とする目標を掲げる

*2 Tutuila Wind Energy LLCの出資比率はPacific Rim Energy Inc.:100%、Pacific Rim Energy Inc.の出資比率は株式会社レノバ:50% 日本工営:50%

国内におけるマルチ電源戦略

- 2030年の導入目標*1に対し、再エネ全体における未導入容量は63.0～77.1GW（約1,154億～1,329億kWh）*2
- 当社が有する知見をフルに活かし、引き続きマルチ電源戦略を推進
- 需要側の高まるニーズも捉え、電源種によってはNon-FIT形態も含めた柔軟な開発に取り組む

2030年度のエネルギー基本計画達成に向けた未導入量比率*2



新規収益事業の積み上げ加速

*1 2022年10月22日に閣議決定された第6次エネルギー基本計画におけるエネルギーミックスの数値。*2 経産省・審議会資料を基に当社計算・作成（水力含む）
 *3 未導入量はFIT認定済み未稼働容量も含む *4 未稼働容量は第40回大量導入小委資料1の数値を引用 *5 FIT認定量及び再エネ海域利用法に基づく公募の落札量は未導入量に含む
 （経産省・審議会資料：https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/saisei_kano/pdf/040_01_00.pdf / https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/saisei_kano/pdf/035_01_00.pdf）

事業領域の中長期展望

- カーボンニュートラル事業推進のため、GX(グリーン・トランスフォーメーション)本部を設置





4. 2023年3月期業績予想

苅田バイオマス(75.0MW、福岡県京都郡苅田町)

2023年3月期連結業績予想 (IFRS)

(単位: 百万円 / %)

- 売上収益及びEBITDAは、苅田バイオマス及び軽米尊坊ソーラーの通期寄与により成長
- 四日市ソーラーの出資持分の一部を譲渡したことに伴い、売却益を「その他収益」として計上
- 開発においては、経営リソースの最適配分を実施した上で、開発投資を継続

	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (業績予想)	変化率
売上収益	29,207	35,500	21.5%
EBITDA ^{*1}	13,087	17,800	36.0%
EBITDA マージン	44.8%	50.1%	-
営業利益	874	8,700	895.1%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,581	2,900	83.4%
EPS(円) ^{*2}	20.25	36.77	-
ROE ^{*3}	6.7%	12.3%	-

- 苅田バイオマス及び軽米尊坊ソーラーの通期寄与
- 徳島津田バイオマスの運転開始
- 事業開発報酬は複数の開発事業から計上

- 四日市ソーラーについて、「売却益」(売却持分)及び「公正価値評価益」(継続保有持分)を計上見込み
- 経営リソースの最適配分を実施の上、開発投資は継続

^{*1} EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益(由利本荘洋上風力除く)+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

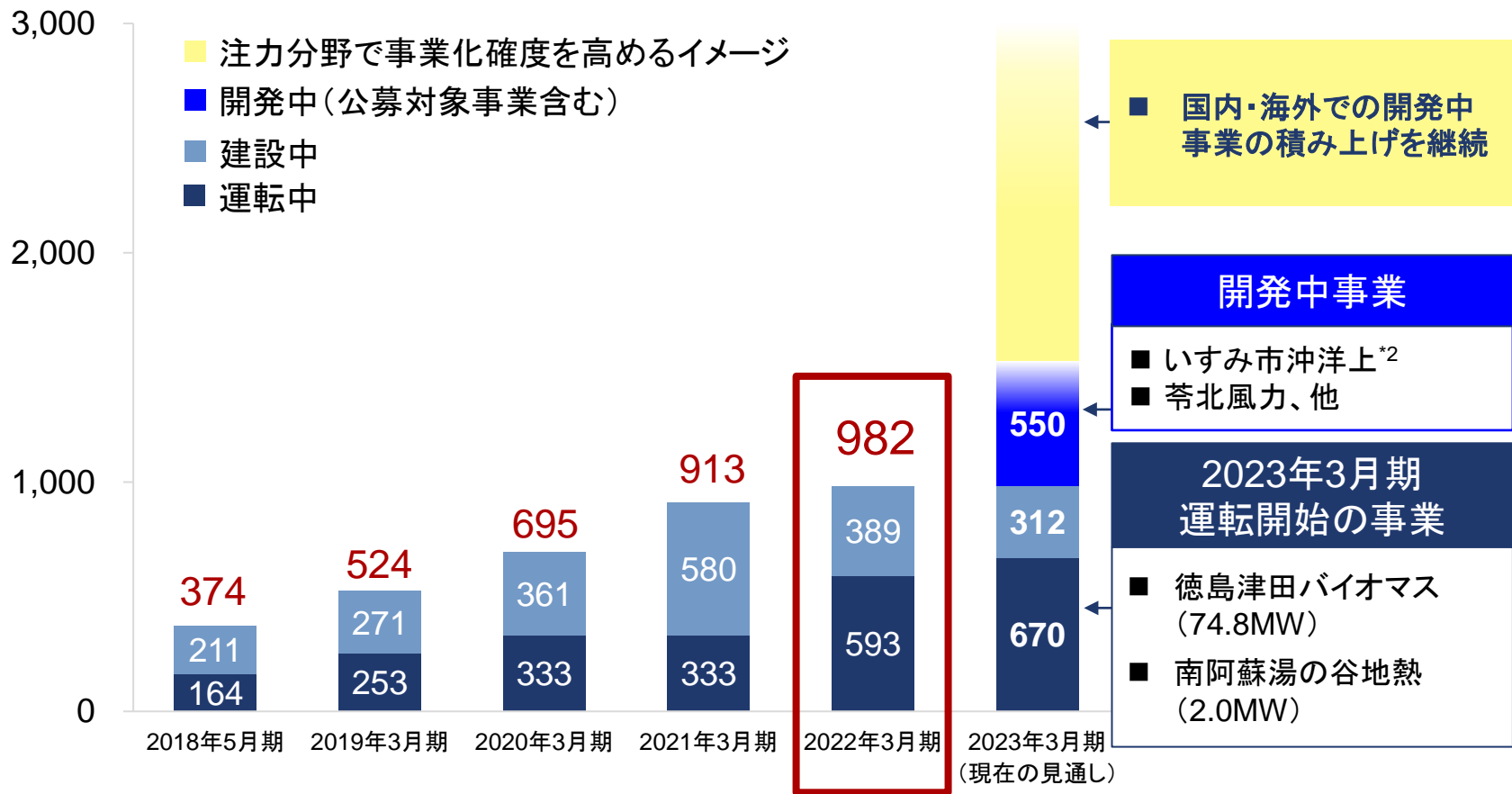
^{*2} 2023年3月期(業績予想)のEPSは、2022年3月期末における発行済株式総数を期中平均株式数と仮定して算出 ^{*3} ROE における親会社の所有者に帰属する持分は

連結会計年度の期首と期末の単純平均値を使用

運転中・建設中の発電事業の設備容量推移*1

2022年5月現在(単位:MW)

- 南阿蘇湯の谷地熱(2.0MW)は、2022年12月の運転開始を予定。徳島津田バイオマス(74.8MW)は、2023年3月の運転開始を予定
- 苓北風力(54.6MW)は、今期中の着工を予定



*1 EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記しています

*2 公募対象事業

ミッション / 経営理念

グリーンかつ自立可能なエネルギー・システムを構築し
重要な社会的課題を解決する

ビジョン / 目指すべき企業の姿

日本とアジアにおけるエネルギー変革の
リーディング・カンパニーとなること

自然と、あなたと、ともに未来へ。



2022年3月期 決算補足資料

自然と、あなたと、ともに未来へ。



2022年5月10日

注意事項

本資料は、株式会社レノバ(以下「弊社」といいます。)及び弊社グループの企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、弊社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、弊社はその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではなく、また、弊社はその内容を更新する義務を負うものでもありません。

また、本資料に記載される弊社グループの計画、見通し、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における弊社の判断又は考えにすぎず、実際の弊社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外のエネルギー政策、法令、制度、市場等の動向、弊社グループの事業に必要な許認可の状況、土地や発電設備等の取得・開発の成否、天候、気候、自然環境等の変動等により、本資料記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

本資料の記載金額は、原則、連結数値を使用、百万円未満は四捨五入としているため、各欄の合計値と合致しない場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先
株式会社レノバ IR室
電話 : 03-3516-6263
メール: ir@renovainc.com
IRサイト: <https://www.renovainc.com/ir>

I. 2022年3月期決算(IFRS)

2022年3月期連結決算(IFRS)及び直近のハイライト

1

苅田バイオマス(75.0MW)が運転開始し連結業績に寄与
売上収益及びEBITDAが過去最高を更新

2

苓北風力(54.6MW)の開発は順調に進捗
今期中の着工を予定

3

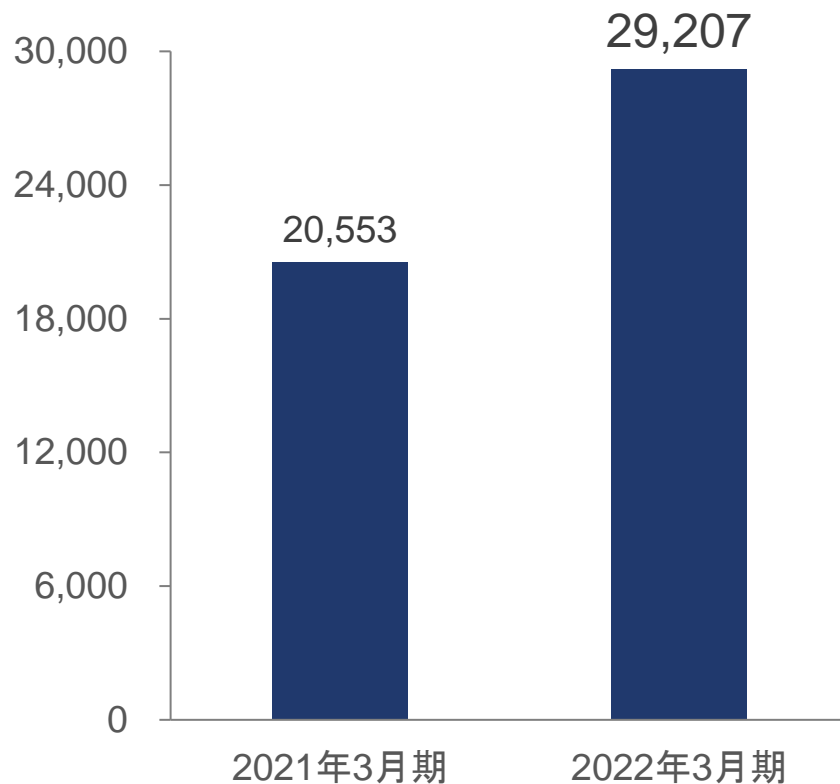
海外及び国内における
Non-FITも含む新規事業の推進

連結売上収益及び連結EBITDA^{*1}の推移(IFRS)

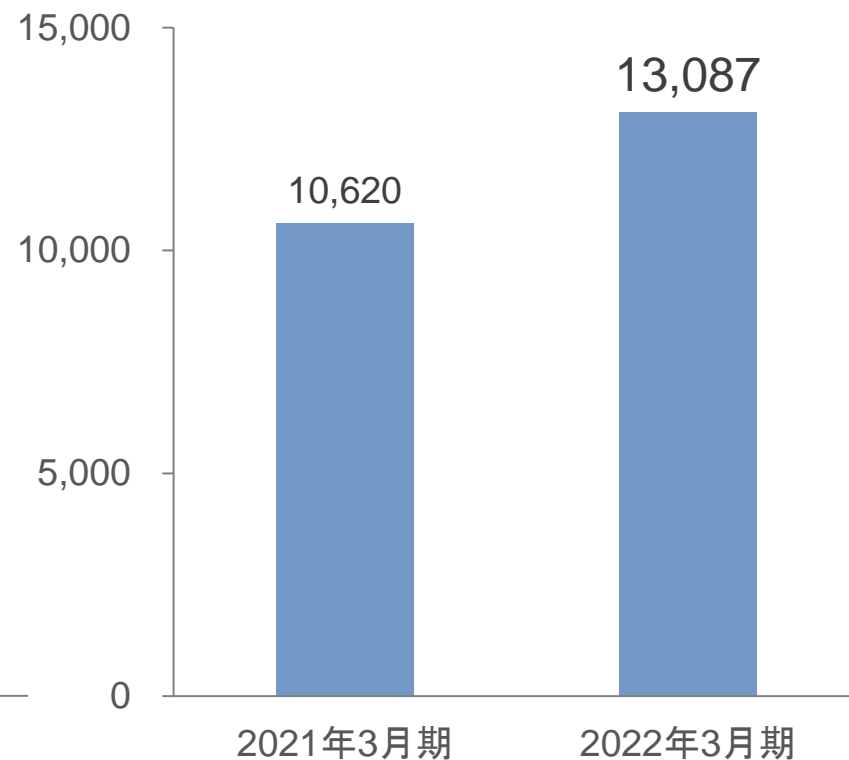
(単位: 百万円)

- 売上収益及びEBITDAは、苅田バイオマス及び軽米尊坊ソーラーの運転開始に伴い前年対比で増収増益

連結売上収益(実績)



連結EBITDA^{*1}(実績)



^{*1} EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益(由利本荘洋上風力除く)+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

連結業績ハイライト(IFRS)

(単位: 百万円)

- 営業利益以下の段階利益は、洋上風力事業の公募選定結果に伴う関連会社出資持分の損失処理等が影響

	2021年3月期	2022年3月期	2022年3月期 (修正予想)	前期比
売上収益	20,553	29,207	29,000	42.1%
EBITDA*1	10,620	13,087	13,000	23.2%
EBITDA マージン	51.7%	44.8%	44.8%	-
営業利益	4,605	874	800	▲81.0%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	11,507	1,581	1,500	▲86.3%
EPS(円)*2	149.67	20.25	19.00	▲86.5%
ROE*3	81.7%	6.7%	-%	-
運転中発電所数 (括弧は持分法適用の数)	12(0)	14 (1)	14 (1)	-
設備容量(MW)*4	333.3	593.1	593.1	-

*1 EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益(由利本荘洋上風力除く)+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

*2 EPSは潜在株式調整を考慮しない数値 *3 ROE における親会社の所有者に帰属する持分は、12ヶ月間の期首・期末の単純平均値を使用

*4 設備容量は弊社持分比率を考慮しないグロス値で表示

セグメント別連結業績(IFRS)

(単位: 百万円)

- 再生可能エネルギー発電事業は、苅田バイオマス及び軽米尊坊ソーラーの運転開始に伴い増収増益。なお、激変緩和措置期間が終了したことによる影響は軽微
- 再生可能エネルギー開発・運営事業は、前年同期に対して事業開発報酬の減少及び洋上風力事業の公募選定結果に伴う関連会社出資持分の損失処理等が、営業利益に影響

		2021年3月期	2022年3月期	増減	
再生可能エネルギー 発電事業	(A)	売上収益	17,651	27,887	+58.0%
		EBITDA ^{*2}	12,442	16,757	+34.7%
		営業利益	6,566	8,640	+31.6%
再生可能エネルギー 開発・運営事業 +連結消去	(B) ^{*1}	売上収益	2,902	1,320	▲54.5%
		EBITDA ^{*2}	▲1,822	▲3,670	NM
		営業利益	▲1,961	▲7,766	NM
合計	(A) + (B) ^{*1}	売上収益	20,553	29,207	+42.1%
		EBITDA ^{*2}	10,620	13,087	+23.2%
		営業利益	4,605	874	▲81.0%

*1 子会社や関連会社に対する弊社の持分に相当する事業開発報酬等については、連結決算上は連結グループ内取引として連結消去

*2 EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益(由利本荘洋上風力除く)+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

連結資本構成(IFRS)

(単位: 百万円)

- バイオマス事業の燃料調達に係る長期為替予約の公正価値変動の影響に伴い、資本比率は上昇
- 連結有利子負債における、発電事業SPCのプロジェクト・ファイナンスが占める割合は、約8割。なお、プロジェクト・ファイナンスの殆どは、金利スワップによって金利を固定化済み

		2021年3月期 期末	2022年3月期 期末	増減	主な増減要因
主要BS項目	資産合計	220,546	296,223	75,677	苅田バイオマスの連結化及び徳島津田バイオマスの建設進捗に伴う増加
	親会社の所有者に帰属する持分合計	15,252	31,886	16,634	バイオマス事業の燃料調達に係る長期為替予約の公正価値変動
	純有利子負債 ^{*1}	122,630	163,589	40,958	苅田バイオマス及び徳島津田バイオマスの建設進捗に伴う増加
	現預金 ^{*2}	40,356	44,283	3,927	
	有利子負債 ^{*3}	162,986	207,871	44,885	
財務健全性 指標	親会社所有者持分比率	6.9%	10.8%	3.8%	
	資本比率	11.3%	17.7%	6.4%	
	Net D / Eレシオ ^{*4}	4.9x	3.1x	▲1.8X	
	Net Debt / LTM EBITDA ^{*5}	11.5x	12.5x	1.0x	
	調整後Net Debt / LTM EBITDA ^{*6}	8.8x	10.2x	1.4x	

*1 純有利子負債＝有利子負債－現預金 *2 現預金＝現金及び現金同等物＋引出制限付預金 *3 有利子負債＝借入金＋社債＋リース負債＋その他の金融負債

*4 Net D/Eレシオ＝純有利子負債 / 資本 *5 EBITDAは、2021年3月期 10,620百万円、2022年3月期 13,087百万円

*6 運転期間が1年未満の発電事業SPCのNet Debt及びEBITDAを除いた数値にて算出

連結財政状態計算書(IFRS)

(単位: 百万円)

■ 荏田バイオマスの連結化に伴い、資産及び有利子負債は増加

	2021年3月期 期末	2022年3月期 期末	増減	主な増減要因
流動資産	46,699	56,139	9,440	
非流動資産	173,847	240,084	66,237	
有形固定資産	104,148	147,480	43,332	荏田バイオマスの連結化に伴う増加
無形資産	19,730	37,439	17,709	荏田バイオマスの連結化に伴う増加
その他の金融資産	17,840	27,173	9,333	バイオマス燃料調達に係る長期為替予約の公正価値変動
その他の非流動資産	4,733	5,804	1,071	
資産合計	220,546	296,223	75,677	
有利子負債 ^{*1}	162,986	207,871	44,885	荏田バイオマスの連結化に伴う増加
その他負債	32,696	35,911	3,215	
負債合計	195,682	243,782	48,100	
利益剰余金	20,722	22,303	1,581	当期利益による増加
その他の資本の構成要素	▲8,729	6,301	15,030	キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値変動
親会社の所有者に帰属する持分合計	15,252	31,886	16,634	
非支配持分	9,612	20,555	10,943	荏田バイオマスの連結化に伴う増加
資本合計	24,864	52,441	27,577	

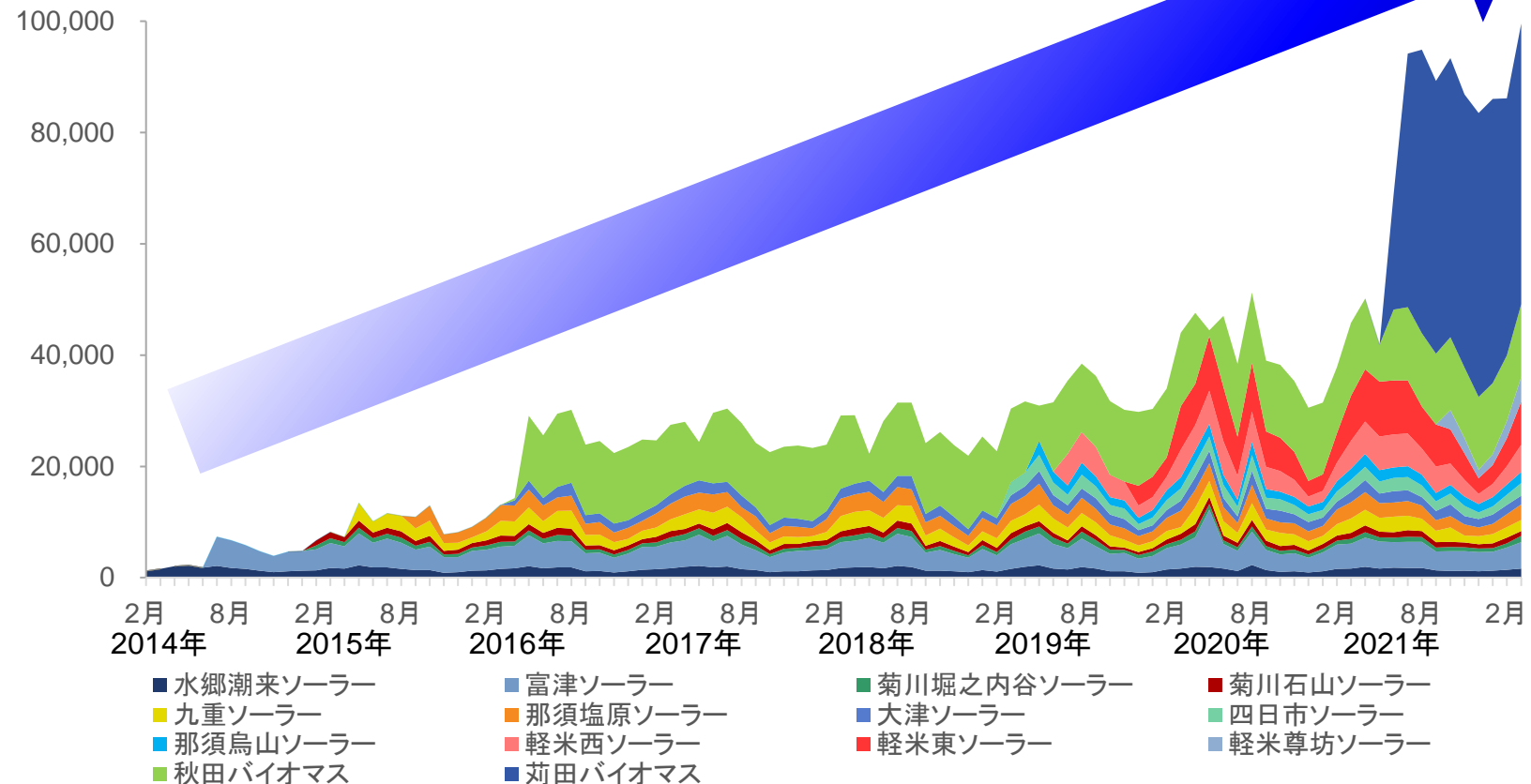
*1 有利子負債 = 借入金 + 社債 + リース負債 + その他の金融負債

レノバの保有する国内の発電所における売電量の月次推移*1

2022年3月時点

- 2021年6月に苅田バイオマス(75.0MW)、2021年10月に軽米尊坊ソーラー(40.8MW)が運転開始
- 各発電所とも運転開始以降、安定した稼働を継続

(単位：MWh*2)



*1 秋田バイオマスは、毎年5月に運転を停止し、定期点検を実施

*2 発電量をあらわす単位(1MWh=1,000kWh)

(ご参考) 運転中の連結子会社(発電事業SPC)の単体決算の状況 (IFRS/単位: 百万円)

	設備容量 (MW)	買取価格 (/kWh)		売上収益	EBITDA	EBITDA マージン	当期利益	弊社 持分比率
水郷潮来ソーラー*1	15.3	40円	2022年3月期	730	625	85.7%	230	68.0%
			2021年3月期	731	575	78.6%	190	68.0%
富津ソーラー*1	40.4	40円	2022年3月期	2,013	1,769	87.9%	692	51.0%
			2021年3月期	2,005	1,793	89.4%	698	51.0%
菊川石山ソーラー*1	9.4	40円	2022年3月期	483	411	85.2%	136	63.0%
			2021年3月期	476	400	84.0%	124	63.0%
菊川堀之内谷 ソーラー*1	7.5	40円	2022年3月期	378	315	83.3%	98	61.0%
			2021年3月期	373	306	82.0%	89	61.0%
九重ソーラー*2 *3	25.4	40円	2022年3月期	1,032	832	80.6%	362	100.0%
			2021年3月期	1,100	927	84.3%	313	100.0%
那須塩原ソーラー*2 *3	26.2	40円	2022年3月期	1,120	965	86.2%	486	100.0%
			2021年3月期	1,177	981	83.3%	408	100.0%

*1 株式会社 *2 匿名組合事業

*3 匿名組合事業に関してその課税所得は、出資割合に応じて匿名組合出資者に帰属するため、匿名組合事業としての税金費用は発生しない

(ご参考) 運転中の連結子会社(発電事業SPC)の単体決算の状況 (IFRS/単位: 百万円)

	設備容量 (MW)	買取価格 (/kWh)			EBITDA	当期利益	弊社 持分比率	
			売上収益	EBITDA	マージン			
大津ソーラー ^{*1 *2}	19.0	36円	2022年3月期	756	587	77.7%	206	100.0%
			2021年3月期	790	616	78.0%	147	100.0%
四日市ソーラー ^{*1 *2}	21.6	36円	2022年3月期	852	672	78.8%	217	100.0%
			2021年3月期	886	721	81.4%	233	100.0%
那須烏山ソーラー ^{*1 *2}	19.2	36円	2022年3月期	790	627	79.4%	200	100.0%
			2021年3月期	753	579	76.9%	133	100.0%
軽米西ソーラー ^{*1 *2}	48.0	36円	2022年3月期	1,894	1,548	81.7%	310	100.0%
			2021年3月期	1,772	1,430	80.7%	152	100.0%
軽米東ソーラー ^{*1 *2}	80.8	36円	2022年3月期	3,007	2,497	83.0%	629	100.0%
			2021年3月期	2,855	2,363	82.8%	510	100.0%
軽米尊坊ソーラー ^{*1 *2} ^{*3}	40.8	36円	2022年3月期	618	401	64.9%	▲143	55.0%
			2021年3月期	-	-	-	-	46.0%
秋田バイオマス (URE) ^{*4}	20.5	32円 /24円	2022年3月期	4,455	1,413	31.7%	504	35.3%
			2021年3月期	4,731	1,741	36.8%	700	35.3%
苅田バイオマス	75.0	24円 /32円	2022年3月期	9,759	3,686	37.8%	1,052	53.1%
			2021年3月期	-	-	-	-	43.1%

*1 匿名組合事業 *2 匿名組合事業に関してその課税所得は、出資割合に応じて匿名組合出資者に帰属するため、匿名組合事業としての税金費用は発生しない

*3 2021年10月8日、出資持分の追加取得により、弊社持分比率は55.0%

*4 ユナイテッドリニューアブルエナジー株式会社

II. 2023年3月期業績予想(IFRS)

2023年3月期連結業績予想 (IFRS)

(単位: 百万円 / %)

- 売上収益及びEBITDAは、苅田バイオマス及び軽米尊坊ソーラーの通期寄与により成長
- 四日市ソーラーの出資持分の一部を譲渡したことに伴い、売却益を「その他収益」として計上
- 開発においては、経営リソースの最適配分を実施した上で、開発投資を継続

	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (業績予想)	変化率
売上収益	29,207	35,500	21.5%
EBITDA* ¹	13,087	17,800	36.0%
EBITDA マージン	44.8%	50.1%	-
営業利益	874	8,700	895.1%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,581	2,900	83.4%
EPS(円)* ²	20.25	36.77	-
ROE* ³	6.7%	12.3%	-

- 苅田バイオマス及び軽米尊坊ソーラーの通期寄与
- 徳島津田バイオマスの運転開始
- 事業開発報酬は複数の開発事業から計上

- 四日市ソーラーについて、「売却益」(売却持分)及び「公正価値評価益」(継続保有持分)を計上見込み
- 経営リソースの最適配分を実施の上、開発投資は継続

*1 EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益(由利本荘洋上風力除く)+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外

*2 2023年3月期(業績予想)のEPSは、2022年3月期末における発行済株式総数を期中平均株式数と仮定して算出

*3 ROE における親会社の所有者に帰属する持分は、連結会計年度の期首と期末の単純平均値を使用

2023年3月期業績予想の主な前提条件

	2022年3月期(実績)	2023年3月期(予想)
発電事業 セグメント	<p>【連結】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 太陽光12ヶ所／353.6MW <ul style="list-style-type: none"> - 軽米尊坊ソーラー6ヶ月分の業績寄与 - 太陽光の一部は需給調整／工事・点検のための出力制御に伴う影響を考慮 ■ バイオマス2ヶ所／95.5MW <ul style="list-style-type: none"> - 苅田バイオマス8ヶ月分の業績寄与 - 計画外停止リスクバッファを考慮 <p>【持分法による投資損益】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 陸上風力1ヶ所／144.0MW <ul style="list-style-type: none"> - クアンチ風力5ヶ月分の業績寄与 ■ バイオマス1ヶ所／75.0MW <ul style="list-style-type: none"> - 苅田バイオマスの試運転期間の売電収入の業績寄与 	<p>【連結】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 太陽光11ヶ所／332.0MW <ul style="list-style-type: none"> - 軽米尊坊ソーラーが通期業績寄与 - 太陽光の一部は需給調整／工事・点検のための出力制御に伴う影響を考慮 ■ バイオマス3ヶ所／170.3MW <ul style="list-style-type: none"> - 苅田バイオマスが通期業績寄与 - 徳島津田バイオマスが1ヶ月分の業績寄与 - 徳島津田バイオマスの試運転期間の売電収入の業績寄与 - 計画外停止リスクバッファを考慮 <p>【持分法による投資損益】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 陸上風力1ヶ所／144.0MW <ul style="list-style-type: none"> - クアンチ風力が通期業績寄与 ■ バイオマス1ヶ所／75.0MW <ul style="list-style-type: none"> - 石巻ひばり野バイオマスの試運転期間の売電収入の業績寄与 ■ 地熱1ヶ所／2.0MW <ul style="list-style-type: none"> - 南阿蘇湯の谷地熱の4ヶ月分の売電収入の業績寄与
	開発・ 運営事業 セグメント	<p>【事業開発報酬】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 約10億円*1

*1 事業開発報酬は、連結消去後の数値を記載

再生可能エネルギー事業のセグメント別業績予想(IFRS)

(単位: 百万円)

- 苅田バイオマス、軽米尊坊ソーラーの通期寄与及び徳島津田バイオマスの運転開始に伴い、発電事業は成長
- 開発・運営事業は、事業開発報酬の計上を見込む。新規事業積上げに向けた開発投資は継続

		2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (業績予想)	差分		
再生可能エネルギー —発電事業	(A)				<ul style="list-style-type: none"> ■ 苅田バイオマス、軽米尊坊ソーラーの通期寄与 ■ 徳島津田バイオマスの運転開始 	
		売上収益	27,887	33,900		6,013
		EBITDA ^{*2}	16,757	18,200		1,443
		営業利益	8,640	9,200	560	
再生可能エネルギー —開発・運営事業 +連結消去	(B) ^{*1}				<ul style="list-style-type: none"> ■ 複数の事業開発報酬を計上見込み ■ リソースの最適配分を実施の上、開発投資は継続 	
		売上収益	1,320	1,600		280
		EBITDA ^{*2}	▲3,670	▲400		NM
		営業利益	▲7,766	▲500	NM	
合計	(A) + (B) ^{*1}					
		売上収益	29,207	35,500	6,293	
		EBITDA ^{*2}	13,087	17,800	4,713	
		営業利益	874	8,700	7,826	

*1 子会社や関連会社に対する弊社の持分に相当する事業開発報酬等については、連結決算上は連結グループ内取引として連結消去

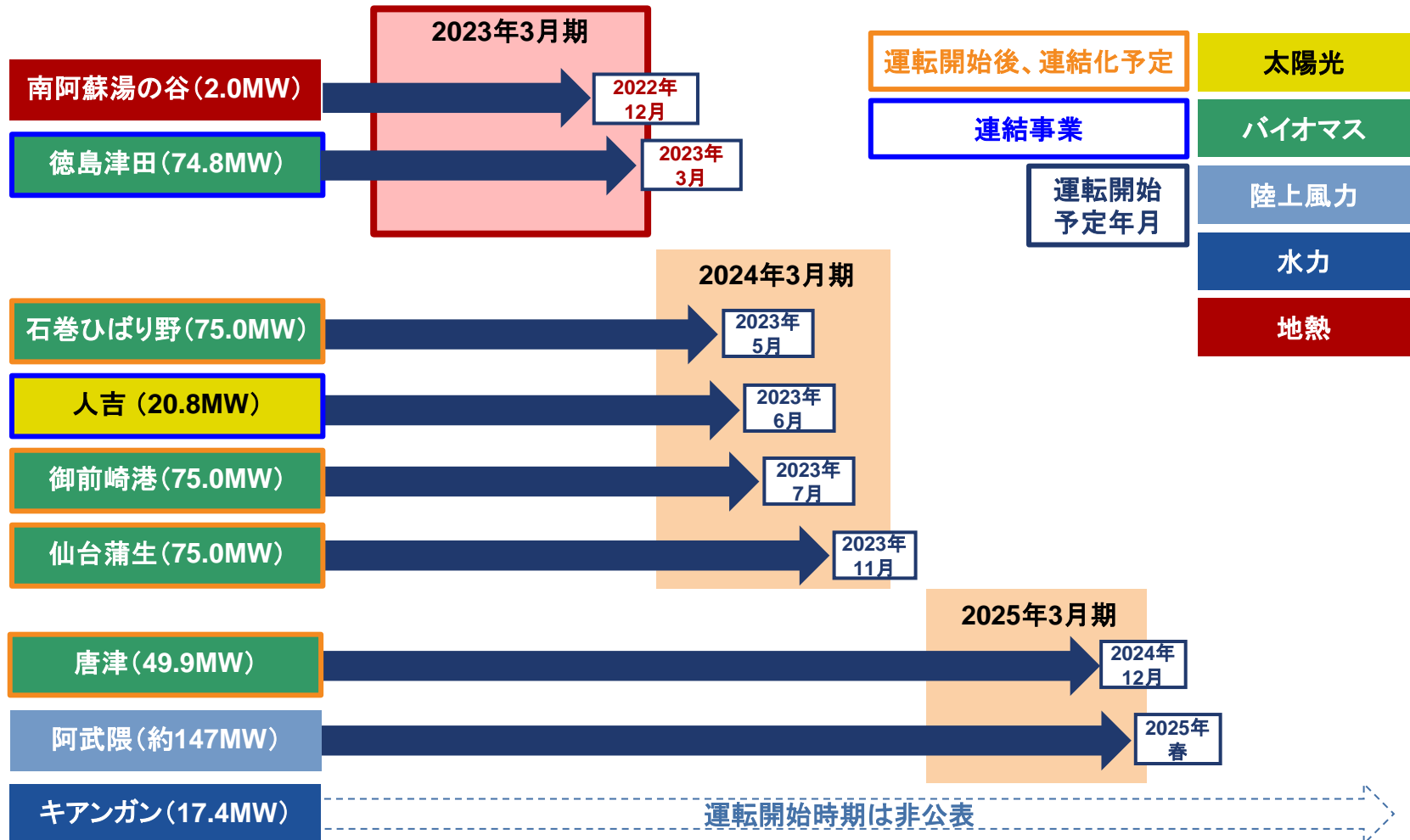
*2 EBITDA=売上収益-燃料費-外注費-人件費+持分法による投資損益(由利本荘洋上風力除く)+その他の収益・費用、EBITDAは監査法人の監査又は四半期レビュー対象外 15

Ⅲ. 事業開発状況のアップデート

建設中事業の運転開始スケジュール^{*1*2}

2022年5月現在

■ 今期以降に運転開始予定の全9事業^{*2}の建設は予定通りに進捗





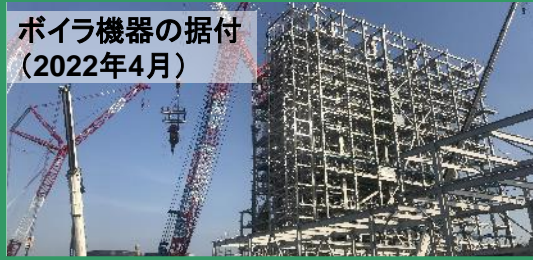
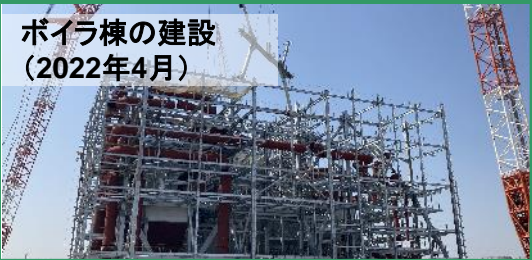
*1 建設中の事業の運転開始の年月は、現状における予定であり、変更、遅延となる可能性がある。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

*2 2021年8月に着工したキアンガン水力(17.4MW)の運転開始は非公表

建設中事業の進捗^{*1} (1/2)

2022年5月現在

- 建設中の全てのバイオマス発電所において、タービン建屋の建設及び基礎工事等が順調に進捗

<p>徳島津田バイオマス (74.8MW、徳島県徳島市)</p> <p>全景 (2022年4月)</p>  <p>2023年3月運転開始(予定)^{*2}</p>	<p>石巻ひばり野バイオマス (75.0MW、宮城県石巻市)</p> <p>主要設備の据付 (2022年4月)</p>  <p>2023年5月運転開始(予定)^{*2}</p>	<p>御前崎港バイオマス (75.0MW、静岡県御前崎市他)</p> <p>ボイラ機器の据付 (2022年4月)</p>  <p>2023年7月運転開始(予定)^{*2}</p>
<p>仙台蒲生バイオマス (75.0MW、宮城県仙台市)</p> <p>ボイラ棟の建設 (2022年4月)</p>  <p>2023年11月運転開始(予定)^{*2}</p>	<p>唐津バイオマス (49.9MW、佐賀県唐津市)</p> <p>造成工事 (2022年4月)</p>  <p>2024年12月運転開始(予定)^{*2}</p>	

^{*1} EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

^{*2} 現状の計画値であり、変動する可能性がある

建設中事業の進捗^{*1} (2/2)

2022年5月現在

- 南阿蘇湯の谷地熱は、造成工事及び冷却棟等の建設が順調に進捗
- 人吉ソーラーやキアンガン水力は、土木工事が順調に進捗

南阿蘇湯の谷地熱
(2.0MW、熊本県阿蘇郡南阿蘇村)

冷却塔等の基礎
(2022年4月)



2022年12月運転開始(予定)^{*2}

人吉ソーラー
(20.8MW、熊本県人吉市)

調整池の整備
(2022年4月)



2023年6月運転開始(予定)^{*2}

キアンガン水力
(17.4MW、フィリピンイフガオ州)

躯体工事
(2022年4月)



運転開始に向け建設中^{*2*3}

^{*1} EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

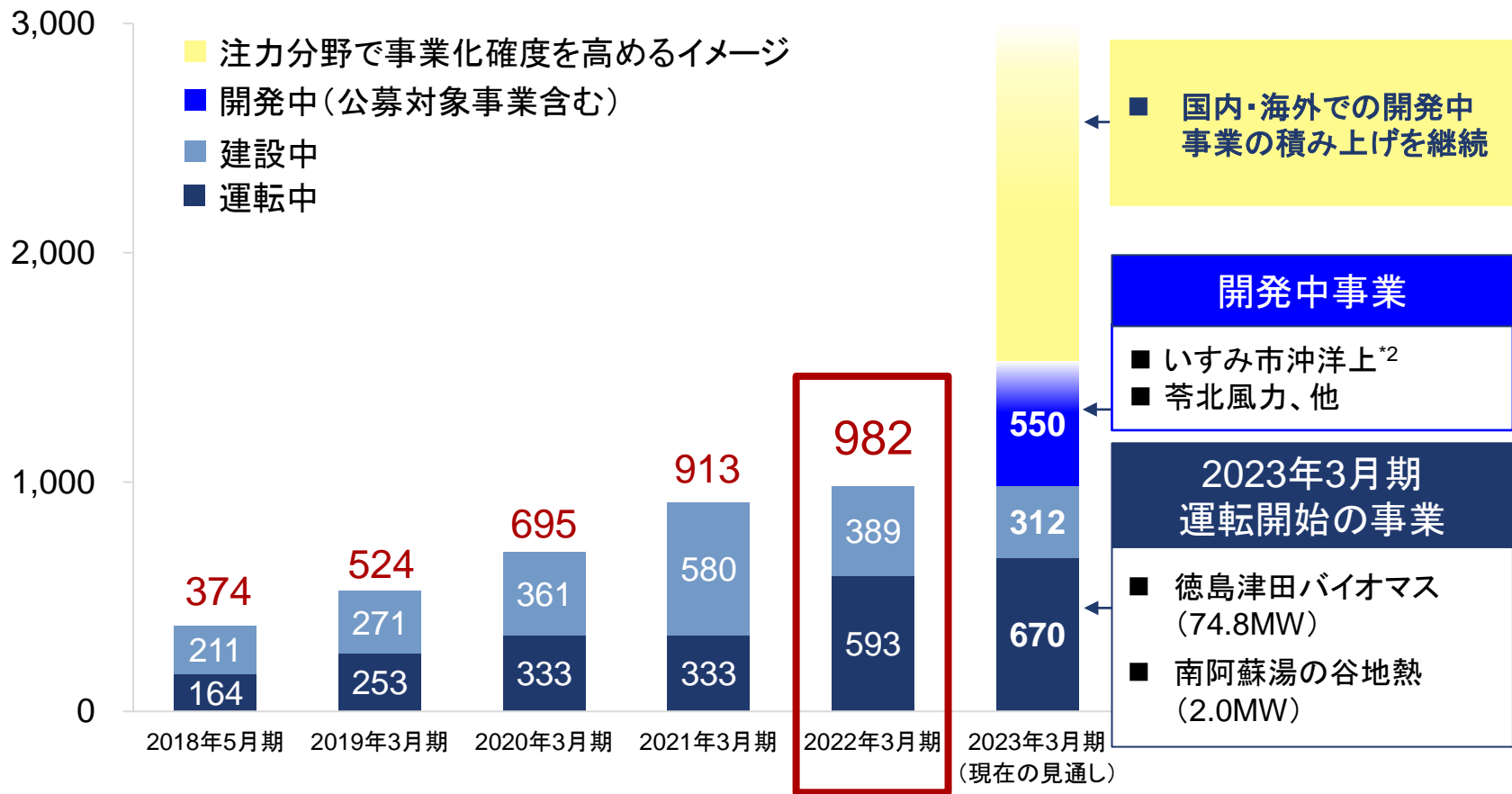
^{*2} 現状の計画値であり、変動する可能性がある

^{*3} 運転開始時期は非公表

運転中・建設中の発電事業の設備容量推移*1

2022年5月現在(単位:MW)

- 南阿蘇湯の谷地熱(2.0MW)は、2022年12月の運転開始を予定。徳島津田バイオマス(74.8MW)は、2023年3月の運転開始を予定
- 苓北風力(54.6MW)は、今期中の着工を予定



*1 EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記しています

*2 公募対象事業

IV.【添付資料】その他会社情報

電源の保有及び開発状況(1/4)

現在公表可能な事業リスト*1(2022年5月現在)

■ 人吉ソーラー(20.8MW)は建設が順調に進捗

電源	事業名 略称	所在地	設備容量 (MW)	買取価格 (/kWh)*2	現況	出資比率	運転開始年 (目標)*3	FIT終了年
太陽光	水郷潮来	茨城県	15.3	40円	運転中	68.0%	2014年	2034年
	富津	千葉県	40.4	40円	運転中	51.0%	2014年	2034年
	菊川石山	静岡県	9.4	40円	運転中	63.0%	2015年	2035年
	菊川堀之内谷	静岡県	7.5	40円	運転中	61.0%	2015年	2035年
	九重	大分県	25.4	40円	運転中	100%	2015年	2035年
	那須塩原	栃木県	26.2	40円	運転中	100%	2015年	2035年
	大津	熊本県	19.0	36円	運転中	100%	2016年	2036年
	四日市	三重県	21.6	36円	運転中	20%	2019年	2039年
	那須烏山	栃木県	19.2	36円	運転中	100%	2019年	2039年
	軽米西	岩手県	48.0	36円	運転中	100%	2019年	2039年
	軽米東	岩手県	80.8	36円	運転中	100%	2019年	2039年
	軽米尊坊	岩手県	40.8	36円	運転中	55.0%	2021年10月	2041年
	人吉	熊本県	20.8	36円	建設中	38.0%*4	(2023年6月)	(2042年頃)*5

*1 開発中の事業は、開発状況や進捗及び環境影響評価を踏まえた意見等に鑑み、変更、遅延又は中止となる可能性がある。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

*2 買取価格は、売電先との実際の契約価格ではなく、各発電設備に対してFIT法に基づき適用されている固定買取価格(消費税抜表示)

*3 建設中の事業における運転開始年は変更する可能性がある

*4 発電所の完成日以降に、共同スポンサーが保有する匿名組合出資持分(62.0%)の全てを買い増す権利を有す

*5 九州電力による送電線の工事期間が長期に亘り、運転開始は2023年の半ばを想定。2016年8月1日以降に接続契約を締結しており、認定から3年間の運転開始期限が設けられているため、固定価格買取制度の下での売電期間は18年8ヶ月となる見通し

電源の保有及び開発状況(2/4)

現在公表可能な事業リスト^{*1}(2022年5月現在)

- 徳島津田バイオマス(74.8MW)は、2022年3月の運転開始を予定
- 運転中及び建設中のバイオマス事業の設備容量は合計約450MW

電源	事業名 略称	所在地	設備容量 (MW)	買取価格 (/kWh) ^{*2}	現況	出資比率	運転開始年 (目標) ^{*3}	FIT 終了年
バイオマス	秋田(URE)	秋田県	20.5	32円/24円	運転中	35.3% ^{*4}	2016年	2036年
	苅田	福岡県	75.0	24円/32円	運転中	53.1%	2021年6月	2041年
	徳島津田	徳島県	74.8	24円/32円	建設中	70.4% ^{*5}	(2023年3月)	(2043年頃)
	御前崎港	静岡県	75.0	24円/32円	建設中	57.0% ^{*6*}	(2023年7月)	(2043年頃)
	石巻ひばり野	宮城県	75.0	24円/32円	建設中	49.9% ^{*8*}	(2023年5月)	(2043年頃)
	仙台蒲生	宮城県	75.0	24円/32円	建設中	29.0% ^{*10}	(2023年11月)	(2043年頃)
	唐津	佐賀県	49.9	24円	建設中	35.0% ^{*11}	(2024年12月)	(2044年頃)

*1 開発中の事業は、開発状況や進捗及び環境影響評価を踏まえた意見等に鑑み、変更、遅延又は中止となる可能性がある。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

*2 買取価格は、売電先との実際の契約価格ではなく、各発電設備に対してFIT法に基づき適用されている固定買取価格(消費税抜表示)

*3 開発中及び建設中の事業における運転開始年は変更する可能性がある

*4 弊社はURE(ユナイテッドリニューアブルエナジー株式会社)に対して、弊社子会社である千秋ホールディングス㈱(以下、千秋HD)を通じて出資しており、弊社によるUREの実質持分(千秋HDが保有するUREの株式に対して、弊社が保有する千秋HDの持株比率を乗じ、弊社が直接保有するとみなして算出したURE持株比率)は35.3%

*5 ここでは配当比率を記載。出資比率は60.8%

*6 ここでは配当比率を記載。出資比率は38.0%

*7 発電所の完成日以降に、共同スポンサーの一部が保有する特別目的会社出資持分(出資比率: 18.0%、配当比率: 18.0%)を買い増す権利を有す。当該権利を行使した場合、弊社に帰属する事業からの配当比率は75.0%(但し、弊社の出資比率は 56.0%)

*8 ここでは配当比率を記載。出資比率は38.0%

*9 発電所の完成日以降に、共同スポンサーの一部が保有する特別目的会社出資持分(出資比率: 13.0%、配当比率: 13.0%)を買い増す権利を有す。当該権利を行使した場合、弊社に帰属する事業からの配当比率は62.93%(但し、弊社の出資比率は 51.0%)

*10 発電所の完成日以降に、共同スポンサーの一部が保有する特別目的会社出資持分(出資比率: 31.0%)を買い増す権利を有す。当該権利を行使した場合、弊社の出資比率は 60.0%

*11 発電所の完成日以降に、共同スポンサーの一部が保有する特別目的会社出資持分(出資比率: 16.0%)を買い増す権利を有す。当該権利を行使した場合、弊社の出資比率は 51.0%

電源の保有及び開発状況 (3/4)

現在公表可能な事業リスト*1 (2022年5月現在)

- 2022年4月、阿武隈風力(約147MW)が着工
- 苓北風力(54.6MW)は、今期中の着工を予定

電源	事業名略称	所在地	設備容量 (MW)	買取価格 (/kWh)*3	現況	出資比率	環境影響評価の進捗	運転開始年(目標)*4	FIT終了年
洋上風力	いすみ*5	千葉県	約[350-450]	未定	先行投資 (公募対象事業)	-	配慮書完了	未定	-
	唐津*5	佐賀県	調査中	未定	先行投資 (公募対象事業)	-	配慮書完了	未定	-
陸上風力	阿武隈*6	福島県	約147	22円	建設中	10% 未満	完了	(2025年春)	(2045年頃)
	苓北	熊本県	54.6	21円	推進中	-	評価書の確定	(2025年頃)	(2045年頃)
	クアンチ*6	ベトナム	144.0	8.5セント	運転中	40.0%	-	2021年10月	2041年

*1 開発中の事業は、開発状況や進捗及び環境影響評価を踏まえた意見等に鑑み、変更、遅延又は中止となる可能性がある。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

*2 海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律(2018年12月7日公布)における公募

*3 買取価格は、売電先との実際の契約価格ではなく、各発電設備に対してFIT法に基づき適用されている固定買取価格(消費税抜表示)

*4 開発中の事業における運転開始年は変更する可能性がある

*5 規模・運転開始年は、見通しが立った段階で改めてお示しします

*6 他社が開発を主導するマイノリティ投資

電源の保有及び開発状況(4/4)

現在公表可能な事業リスト*1(2022年5月現在)

- 南阿蘇湯の谷地熱(2.0MW)は、2022年12月の運転開始を予定

電源	事業名 略称	所在地	設備容量 (MW)	買取価格 (/kWh)*2	現況	出資 比率	環境影響 評価の 進捗	運転開始年 (目標)*3	FIT 終了年
地熱	南阿蘇 湯の谷*4	熊本県	2.0	40円	建設中	30.0%	-	(2022年12月)	-
	函館恵山	北海道	未定	未定	先行投資	-	準備中	未定	-
水力	キアンガン	フィリピン	17.4*5	5.87 PHP*6	建設中	40.0%	-	非公表	-

*1 開発中の事業は、開発状況や進捗及び環境影響評価を踏まえた意見等に鑑み、変更、遅延又は中止となる可能性がある。EPC契約書上で工事の着手日を迎えた事業については、着工済み及び建設中フェーズとして表記

*2 買取価格は、売電先との実際の契約価格ではなく、各発電設備に対してFIT法に基づき適用されている固定買取価格(消費税抜表示)

*3 開発中の事業における運転開始年は変更する可能性がある

*4 他社が開発を主導するマイノリティ投資

*5 許認可ベースでの設備容量

*6 小水力発電に関する FIT 対象枠の残存期間中に運転開始した場合の想定 FIT 単価

(ご参考) 国内におけるFIT買取価格一覧表*1

2022年3月末時点

- 建設中及び運転中事業はいずれもFIT認定取得済み
- 公表済み開発中事業についても概ねFIT認定取得済み
 - 洋上風力事業は、2018年12月に公布された再エネ海域利用法*2に則り、事業者を選定するプロセスにおいてFIT価格が決定される

2022年度現在のFIT買取価格

弊社の事業に適用されるFIT買取価格

再エネ発電設備の区分等		参入時期 ³ 別の買取価格 ⁴ (1kWh当たり) (税別)											買取期間	
電源	種類・規模	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		2023年度
太陽光	2,000kW以上	40円	36円	32円	29円(～6月末) 27円(7月～)	24円	入札制					FIP制 ⁷	-	20年間
	間伐材等由来 ⁵ 2,000kW以上	32円											20年間	
バイオマス	一般木材等 ⁵ 10,000kW以上 ⁶	24円				24円(～9月末) 21円(10月～)	入札制					-	20年間	
	陸上 20kW以上	22円				22円(～9月末) 21円(10月～)	20円	19円	18円	入札制		-	20年間	
風力	一般海域 ／着床式	-	36円 (一般海域の利用ルール整備に合わせて、ルールの適用される事業は入札制に移行)				入札制					-	20年間	
	一般海域 ／浮体式	-	36円											20年間
地熱	15,000kW以上	26円											15年間	
	15,000kW未満	40円											15年間	

*1 経済産業省・資源エネルギー庁ウェブサイト(2022年3月25日時点)等を参考に弊社作成

*2 海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律(2018年12月7日公布)

*3 表示年度は各年4月から翌年3月までの期間を意味する

*4 買取価格は各年度の期間内にFIT法に基づく要件を満たした再生可能エネルギー発電所の買取期間に亘り適用される、固定の電力買取価格(消費税抜表示)を示す

*5 バイオマスの買取価格設定区分は、間伐材等由来が「国内発生⁶の未利用間伐・主伐材」、一般木質等が「製材端材、輸入材、パーム椰子殻、もみ殻、稲わら等」

*6 バイオマス(一般木材等)の発電規模の当該区分は、2017年度までは20,000kW以上、2018年度以降は10,000kW以上

*7 2022年度は、1,000kW以上が対象

会社概要

2022年3月31日時点

会社情報

社名	株式会社レノバ
本店所在地	東京都中央区京橋二丁目2番1号
代表者	取締役会長 千本 倅生 代表取締役社長CEO 木南 陽介
設立	2000年5月
資本金	2,339百万円
証券取引所	東京証券取引所プライム市場*1
証券コード	9519
事業内容	再生可能エネルギー事業
従業員数(連結)	302名

コーポレート・ガバナンス

取締役会	取締役9名のうち社外取締役5名
監査役会	監査役4名のうち社外監査役3名

株式の状況

発行可能株式総数	280,800,000株
発行済株式総数	78,939,300株
株主数	31,236名

主な沿革

2000年5月	(株)リサイクルワン(現レノバ)を設立
2012年10月	再生可能エネルギー事業に参入
2014年2月	(株)水郷潮来ソーラーにて発電を開始
2014年7月	(株)富津ソーラーにて発電を開始
2015年2月	(株)菊川石山ソーラー、(株)菊川堀之内谷ソーラーにて発電を開始
2015年5月	九重ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2015年9月	那須塩原ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2016年4月	大津ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2017年2月	東京証券取引所マザーズ市場に株式上場
2017年7月	UREを連結子会社化
2018年2月	東京証券取引所市場第1部へ市場変更
2019年3月	四日市ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2019年5月	那須烏山ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2019年7月	軽米西ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2019年12月	軽米東ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2021年6月	苅田バイオマスエナジー(株)にて発電を開始
2021年10月	軽米尊坊ソーラー匿名組合事業にて発電を開始
2021年10月	クアンチ風力事業にて発電を開始

*1 2022年4月4日付け、上場